資治通鑑 第 116 巻

令和 3 年 12 月 29 日

【晉紀三十八】起重光大淵獻，盡閼逢攝提格，凡四年。

■東晋、●北魏、▲北燕、続国訳漢文大成．経子史部 第 7 巻 127p

安皇帝辛義熙七年（辛亥，４１１年）

■春、正月、己未（１２日），**劉裕**は建康に還る。

後秦 西秦［西秦は後秦に称藩］秦の廣平公の**弼**は秦王の**興**に寵有り，雍州（姚泰は嶺北の五郡を分けて置く）刺史と為り，安定に鎮す。**姜紀**は**弼**に諂附（へつらう）し，**弼**に勧めて**興**の左右に結んで以て入朝を求めしめる。**興**は**弼**を征（続は徴）して尚書令、侍中、大將軍と為す。**弼**は遂に身を傾けて朝士に結納し，名勢を收采し，以て東宮を傾ける。國人は之を惡む。**興**の西北の叛亂の多きに會して，重將に命じて之を鎮撫せんと欲す。隴東（涇陽・祖厲・撫夷の三県を領す、郡の始めを記さず、苻姚の置く所）太守の**郭播**は**弼**をして出鎮せ使むるを請い，**興**は從わず，太常の**索稚**を以て太尉と為し、隴西内史を領せしめ，西秦を招撫せ使む。西秦王の**乾歸**は遣使して掠する所の守宰（去年に南安・略陽・隴西の諸郡に克ちて得たる所）を送り，謝罪して降を請う。(7-128P)**興**は鴻臚を遣わして**乾歸**を拜して都督隴西、嶺北、匈奴、雜胡諸軍事、征西大將軍、河州牧、單于、河南王と為し，太子の**熾磐**を鎮西將軍、左賢王、平昌公と為す。

後秦［人材登用には随時任才］**興**は群臣に命じて賢才を搜舉せしむ。右僕射の**梁喜**は曰く、

「臣は累ねて詔を受け而して未だ其の人を得ず，世の之れ才の乏しきを謂う可し。」

興は曰く、

「古より**帝王**之興るや，未だ嘗て相を昔人に取り、將を將來に待たず，時に隨いて才に任じ，皆な能く治を致す。卿は自ら識拔して明かならず，豈に遠く四海を誣ふるを得ん乎！」

群臣は咸な悅ぶ。

後秦［赫連勃勃は後秦を再々圧迫］秦の**姚詳**は杏城（陝西省榆林道中部県、現・延安市黄陵県）に屯し，夏王の**勃勃**の逼る所と為り，南に大蘇（陝西省榆林道宜君県、現・銅川市宜君県）に奔る。**勃勃**は平東將軍の**鹿弈干**を遣わして追いて之を斬り，盡く其の衆を俘とす。**勃勃**は南に安定を攻め，尚書の**楊佛嵩**を青石（甘肅省涇原道涇川県、現・平涼市涇川県）北原に破り，其の衆四萬五千を降す。進みて東鄉，下之を攻め，三千餘戶を貳城に徙す。秦の鎮北參軍の**王買德**は夏に奔り，夏王の**勃勃**は以て秦を滅ぼす之策を問い，**買德**は曰く、

「秦の德は衰えたりと雖も，籓鎮は猶ほ固し，願はくは且くは力を蓄えて以て之を待つべし。」

勃勃は**買德**を以て軍師中郎將と為す。秦王の**興**は衛大將軍の常山公の**顯**を遣わして**姚詳**を迎えしめるも，及ばず，遂に杏城に屯す。

■**劉籓**は**孟懷玉**等の諸將を帥いて**盧循**を追い嶺表に至る。

■二月 壬午（５日），**懷玉**は始興に克ち，**徐道覆**を斬る。

西秦河南王の**乾歸**は鮮卑の僕渾（前年乾歸に降る）部の三千餘戶を度堅城（乞伏がかつて都にした城、甘肅省蘭山道金県、現・蘭州市榆中県、乾歸は秦興を置く）に徙し，子の**敕勃**を以て秦興太守と為し以て之に鎮ぜしむ。

【南涼傉檀と北涼沮渠蒙遜の激突】

南涼 北涼［北涼は南涼の樂都を圍むも克てず］**焦朗**は猶ほ姑臧に據る（前巻前年にあり）。**沮渠蒙遜**は攻めて其の城を抜き，**朗**を執り而して之を宥す。其の弟の**挐**を以て秦州刺史と為し，姑臧に鎮ぜしむ。遂に南

涼を伐ち，樂都を圍む。三旬にして克たず。南涼王の**傉檀**は子の**安周**を以て質と為し，乃ち還る。

南涼 吐谷渾吐谷渾の**樹洛干**は南涼を伐ち，南涼の太子の**虎台**を敗る。

南涼 北涼［南涼は蒙遜を攻め逆に樂都を囲まれる］南涼王の**傉檀**は復た**沮渠蒙遜**を伐たんと欲し，邯川（甘肅省西寧道碾伯県、現・海東市樂都区）護軍の**孟愷**は諫めて曰く、

「**蒙遜**は新たに姑臧を幷せ，凶勢は方に盛んにして，攻める可からざる也。」

傉檀は従わず，五道倶に進み，番禾、苕藿に至り，五千餘戸を掠して而して還る。將軍の**屈右**は曰く、

「今既に利を獲り，宜しく倍道して師を旋さん，早く險阨（狹く扼する峠道）を度るべし。**蒙遜**は善く兵を用い，若し輕軍にして猝に至れば，大敵は外に逼り，徙戸は内に叛す，此くは危道也。」

衛尉の**伊力延**は曰く、

「彼は歩我は騎，勢いは相い及ばず。今倍道して而して歸れば則ち弱きを示し，且つ資財を捐棄せん，計に非ざる也。」

俄に而して昏く霧（霾、砂嵐）風ふき雨ふり，**蒙遜**の兵は大いに至り，**傉檀**は敗走す。**蒙遜**は進みて樂都を圍み，**傉檀**は城を嬰して固守し，子の**染干**を以て質と為し以て和を請い，**蒙遜**は乃ち還る。**(7-129p)**

■三月，**劉裕**は始めて太尉（前巻五年に大尉を加える）、中書監（六年に加える）を受け，**劉穆之**を以て太尉司馬と為し，陳郡の**殷景仁**を行參軍（權參軍・參軍事務取扱）と為す。**裕**は**穆之**に問いて曰く、

「**孟昶**の參佐（參与補佐）、誰か我が府に入れるに堪える者か？」

穆之は前建威中兵參軍（建威将軍の孟昶の中兵參軍）の**謝晦**を舉げる。**晦**は，**安**の兄の**據**之曾孫也，**裕**は即ち命じて參軍と為す。**裕**は嘗て囚を訊ね，其の旦，刑獄參軍は疾有り，**晦**を以て之に代らしむ。車中に於いて訊牒を一覽し，催促は便ち下る。相府は多事にして，獄系は殷積（集積）し，**晦**は問に隨いて酬辨（答弁）し，曾て違謬無し。**裕**は是に由りて之を奇とし，即日刑獄（民曹と賊曹に分れる）賊曹（盜賊を担当、刑事）に署す。**晦**は風姿は美しく，善く言笑し，博贍にして多く通じ，**裕**は深く賞愛を加える。

【盧循遂にベトナムで自決】

■［盧循の巣窟］**盧循**は行々兵を収めて番禺に至り，遂に之を圍む。**孫處**は據りて守ること二十餘日。**沈田子**は**劉籍**に言って曰く、

「番禺の城は險固と雖も、本は賊之巣穴なり。今**循**は之を圍み，或いは内變有らん。且つ**孫季高**（孫處の字）は衆力寡弱にして，能く久しく持たず，若し賊をして還りて廣州に據ら使めば，凶勢は復た振はん矣。」

■夏、四月，**田子**は兵を引いて番禺を救い，**循**を撃ち，之を破り，殺す所萬餘人。**循**は走り，**田子**は**處**と共に之を追い，又た**循**を危梧、鬱林、寧浦に破る。**處**の病に會し，進む能わず，**循**は交州に奔る。

■［杜慧度はついに盧循を討伐］初め，九真太守の**李遜**は亂を作し，交州刺史の交趾の**杜瑗**は討ちて之を斬る。**瑗**は卒し，朝廷は其の子の**慧度**を以て交州刺史と為す。詔書の未だ至らざるに，**循**は襲いて合浦を破り，遂ちに交州に向かう。**慧度**は州府の文武を帥いて石碕に**循**を拒み，之を破り，**循**の餘衆は猶ほ三千人，**李遜**の餘黨の**李脫**等は俚獠五千餘人を結集して以て**循**に應じる。庚子（２４日），**循**は晨に龍編（県、交趾郡にある、安南国交州府の東、ベトナム）の南津に至る。**慧度**は悉く家財を散じて以て軍士に賞し，**循**と合戰し，雉尾炬（草を束ねて鐵鏃を施し、草尾を散開して雉の尾の如く、火を然し敵に投ずる）を擲ちて其の艦を焚き，歩兵を以て岸を夾みて之を射ち，**循**は艦に從いて倶に然え，兵衆は大潰す。**循**は免かれざるを知り，先ず妻子に鴆（毒殺）し，妓妾を召いて問いて曰く、

「誰か能く我が死に従う者はあるか？」
多くは雲う、
「雀鼠すら生を貪る，死に就くは實に難し。」
或は云う、
「官（盧循）すら尚ほ當に死すべし，某（それがし）は豈に生を願わんや！」
乃ち悉く諸々の死を辭する者を殺し，因りて自ら水に投ず。**慧度**は其の屍を取り之を斬り，其の父子及び**李脫**等を幷せ，七首を函にして建康に送る。

■［庾悦と劉毅の立場逆転］初め，**劉毅**は京口に在り，貧困にして，知識（知人）と東堂に射る。**庾悦**は司徒の右長史為（た）り，後に至り，其の射堂を奪う。衆人は皆な之を避け，**毅**は獨り去らず。**悦**は廚饌（もうせん）甚だ盛んなれども，以て**毅**に及ばず。**毅**は**悦**に従いて子鵝（鴛鳥）の炙（あぶりもの）を求め，**悦**は怒りて與にせず，**毅**は是に由りて之を銜む。是に至り，**毅**は兼ねて江州を督するを求め，詔して之を許し，因りて奏して稱す、
「江州は內地なり，(7-130p)民を治めるを以て職と為す。當に軍府を置いて民力を彫耗すべからず，宜しく軍府を罷め移りて豫章に鎮すべし。而して尋陽は蠻に接す，即ち州府の千兵以て郡戍を助ける可し。」
是に於いて**悦**の都督、將軍の官を解き，刺史を以て豫章に鎮ぜしむ。**毅**は親將の**趙恢**を以て千兵を領し尋陽を守らしむ。**悦**の府の文武三千は悉く**毅**の府に入り，符攝（符を江州に下してこれを追攝）は嚴峻なり。**悦**は忿懼し，豫章に至り，疽背に發して卒す。
西秦河南王の**乾歸**は羌の**句豈**（降る事前巻前年にあり）等の部衆五千餘戶を疊蘭城（甘肅省蘭山道導河県、現・臨夏回族自治州臨夏市）に徙し，兄の子の**阿柴**を以て興國太守と為し以て之に鎮せしむ。五月，復た子の**木蘭干**を以て武威太守と為し，康良（いずれも山篇の付くく字、甘肅省蘭山道皐蘭県、現・蘭州市皐蘭県）城に鎮せしむ。
●［魏の昌黎王の慕容伯兒の謀反］丁卯（２２日），魏主の**嗣**は金陵（綏遠特別区域歸綏県、現・フフホト市玉泉区）を謁し，山陽候の**奚斤**は居守す。昌黎王の**慕容伯兒**は反を謀る。己巳（２４日），**奚斤**は其の黨を幷せて之を收めて斬る。

【北燕の馮跋の名声】

▲［北燕は樂浪公主を柔然に娶す］秋七月，燕王の**跋**は太子の**永**を以て大單于を領せしめ，四輔（太子が大單于を兼任するは劉漢に始まり、左右輔を置く。跋は前後輔も置く）を置く。柔然可汗の**斛律**は遣使して馬三千匹を**跋**に獻じ，**跋**の女の**樂浪公主**を娶らんことを求める。**跋**は群臣に命じて之を議さしむ。遼西公の**素弗**は曰く、
「前世は皆な宗女を以て六夷に妻わす，宜しく許すに妃嬪之女を以てすべし，**樂浪公主**は非類に下降するは宜しからず。」
跋は曰く、
「**朕**は方に殊俗を崇信す，奈何んぞ之を欺かんや！」
乃ち**樂浪公主**を以て之に妻わす。
▲［北燕の馮跋の政治は皆喜ぶ］**跋**は政事に勤め，農桑を勸課し，徭役を省き，賦斂を薄くす。守宰を遣わす毎に，必ず親ら引見し，政を為す之要を問い，以て其の能を觀る。燕人は之を悦ぶ。

【河西方面の各勢力攻防】

西秦［西秦は南涼攻略失敗］河南王の**乾歸**は平昌公の**熾磐**及び中軍將軍の**審虔**を遣わして南涼を伐つ。

審虔は，**乾歸**之子也。八月，**熾磐**の兵は河（金城河）を濟り，南涼王の**辱檀**は太子の**虎台**を遣わして逆えて嶺南に戰う。南涼の兵は敗れ，牛馬十餘萬を虜にして而して還る。

北涼［北涼は西涼攻略失敗］**沮渠蒙遜**は輕騎を帥いて西涼を襲い，西涼公の**暠**は曰く、

「兵の戰わず而して敵を敗る者有り，其の銳を挫けば也。**蒙遜**は新たに吾と盟う，而るに遽に來たりて我を襲い，我は閉門して與に戰わず，其の銳氣の竭きるを待ち而して之を擊てば，克たざる蔑（無視）からん矣。」

之れ頃して，**蒙遜**は糧盡きて而して歸り，**暠**は世子の**歆**を遣わして騎七千を帥いて之を邀擊し，**蒙遜**は大敗し，其の將の**沮渠百年**を獲る。

西秦河南王の**乾歸**は秦の略陽太守の**姚龍**を柏陽堡に攻め，之に克つ。冬、十一月，進みて南平太守の**王憬**を水洛城（甘肅省涇原道靜寧県、現・平涼市靜寧県）に攻め，又た之に克ち，民三千餘戶を譚郊に徙す。**乞伏審虔**を遣わして衆二萬を帥いて譚郊（治城の西北、甘肅省蘭山道導河県、現・臨夏回族自治州臨夏市）に城きずかしむ。

西秦十二月，西羌の**彭利發**は襲いて枹罕に據り，大將軍、河州牧を自稱し，**(7-131p)乾歸**は之を討つも，克たず。

■是の歲，并州刺史の**劉道憐**は北徐州刺史と為り，移りて彭城に鎮す。

安皇帝辛義熙八年（壬子，４１２年）

西秦春，正月，河南王の**乾歸**は復た**彭利發**を討ち，奴葵谷（甘肅省西寧道循化県、現・海東市循化サラール族自治県）に至り，**利發**は衆を棄てて南に走り，**乾歸**は振威將軍の**乞伏公府**を遣わして追いて清水に至り，之を斬り，羌戶の一萬三千を收め，**乞伏審虔**を以て河州刺史と為し枹罕に鎮せしめて而して還る。

■二月，丙子（５日），吳興太守の**孔靖**を以て尚書右僕射と為す。

西秦河南王の**乾歸**は都を譚郊に徙し，平昌公の**熾磐**に命じて苑川に鎮せしむ。**乾歸**は吐谷渾の**阿若干**を赤水（甘肅省西寧道貴德県、現・海北チベット族自治州貴德県）に擊ち，之を降す。

【荊州刺史劉毅楽しまず】

■［劉道規の荊州刺史引退］夏，四月，**劉道規**は疾を以て歸るを求め，之を許す。**道規**は荊州に在ること累年，秋毫も犯す無し。歸るに及び，府庫帷幕は，儼然として舊の若し。隨身の甲士二人は席を舟中に遷す，**道規**は之を市に刑す。

■［劉毅の荊州刺史就任］後將軍の豫州刺史の**劉毅**を以て衛將軍、都督荊、寧、秦、雍四州諸軍事、荊州刺史と為す。**毅**は左衛將軍の**劉敬宣**に謂って曰く、

「吾は西任を忝くす，卿を屈して長史南蠻（南蠻校尉府の長史）と為さんと欲す，豈に輔け見るるの意有る乎？」

敬宣は懼れ，以て太尉の**裕**に告げる。**裕**は笑いて曰く、

「但だ老兄をして平安なら令むるべし，必ず過慮する無かれ。」

■［劉毅と劉裕の微妙な関係、継続］**毅**は性は剛愎にして，自ら謂う、

「建義之功は**裕**と相い埒し」，

深く自ら矜伐し，事を權りて**裕**を推すと雖も而して心は服さず。方岳に居るに及びて，常に怏怏として志

を得ず。**裕**は毎に柔に而して之に順い，**毅**は驕縦は滋々甚しく，嘗て云う、
「恨むらくは**劉**、**項**（劉邦と項羽）に遇い，與に之と中原を爭わざらんことを！」
桑落に敗れるに及び（前巻にあり），物情（人望）の已に去るを知り，彌々復た憤激す。**裕**は素より學ばず，而るに**毅**は頗る文雅に渉り，故に朝士の清望有る者は多く之に歸し，尚書僕射の**謝混**、丹陽尹の**郗僧施**と與に，深く相い憑結す。**僧施**は，**超**之從子也。**毅**は既に上流に據り，陰かに**裕**を圖る之志有り，督交、廣二州を兼ねるを求め，**裕**は之を許す。**毅**は又た**郗僧施**を以て南蠻校尉と為し、後軍司馬の**毛修之**を南郡太守と為すを奏し，**裕**は亦た之を許し，**劉穆之**を以て**僧施**に代わりて丹陽尹と為す。**毅**は表して京口に至りて墓に辭するを求め，**裕**は往きて之に倪塘に於いて會う。寧遠將軍の**胡籓**は**裕**に言って曰く、
「公は**劉**衛軍（劉毅は衛将軍）は終に能く公の下と為らんと謂う乎？」
裕は默然として，之れ久しく，曰く、
「卿は何如と謂うか？」
籓は曰く、
「（公は）百萬之衆を連ね，攻めて必ず取り，戰いて必ず克つ，**毅**は固より此くを以て公に服す。傳記を渉獵し，一談一詠するに至りては，自ら許して以て雄豪と為す。是くを以て搢紳や白面之士（年若く経験の乏しき者）輻湊して之に歸す。恐らくは終に公の下為らざらん，會に因りて之を取るに如かず。」
裕は曰く、
「吾は**毅**と俱に克復之功有り，其の過は未だ彰らかならず，**(7-132p)**自ら相い圖る可きにあらざる也。」

【河南王の乾歸殺される】

西秦**乞伏熾磐**は南涼の三河太守の**吳陰**を白土（甘粛省西寧西寧県の東南、現・海東市互助トゥ族自治県）に攻め，之に克ち，**乞伏出累**を以て之に代らしむ。
西秦［乞伏公府は河南王の乾歸を弑し、熾磐が討伐］六月，**乞伏公府**（乞伏國仁の子、立つを得ざるを以て行う）は，河南王の**乾歸**を弑し、幷せて其の諸子十餘人を殺し，走りて大夏を保つ。平冒公の**熾磐**は其の弟の廣武將軍**智達**、揚武將軍の**木弈干**を遣わして騎三千を帥いて之を討つ。其の弟の**曇達**を以て鎮京（乞伏は譚郊に都し、京帥という）將軍と為し，譚郊に鎮ぜしめ，驍騎將軍の**婁機**を苑川に鎮ぜしむ。**熾磐**は文武及び民二萬餘戸を帥いて枹罕に遷る。
後秦 夏［後秦、夏ともに喪を伐たず］秦人は多く秦王の**興**に亂に乘り**熾磐**を取るを勸め，**興**は曰く、
「人の喪を伐つは，禮非ざる也。」
夏王の**勃勃**は**熾磐**を攻めんと欲し，軍師の中郎將の**王買德**は諫めて曰く、
「**熾磐**は，吾之與國なり，今喪亂に遭い，吾は恤む能わず，又た衆力を恃みて而して之を伐つは，匹夫さえ且つ猶ほ恥と為さん，況んや萬乘を乎！」
勃勃は乃ち止む。
■閏月（元嘉暦七月），庚子（１日），南郡の烈武公の**劉道規**は卒す。
●秋，七月（元嘉暦八月），己巳（１日）朔，魏主の**嗣**は東巡し，四廂大將、十二小將を置く。山陽侯の（奚）**斤**、元城侯の（拓跋）**屈**を以て左、右丞相を行わしむ。庚寅（２２日），**嗣**は濡源に至り，西北の諸部落を巡る。
西秦 夏**乞伏智達**等は乞**伏公府**を大夏に於いて擊破し，**公府**は疊蘭城に奔り，其の弟の**阿柴**に就く。**智達**等は攻めて之を抜き，**阿柴**の父子五人を斬る。**公府**は康良（いずれも山篇の付くく字、甘粛省蘭山道皐蘭県）の南山

に奔り，追いて之，幷せて其の四子を獲らえ，之を譚郊に於いて轘(くるまざき)にす。

西秦［乞伏熾磐は河南王として立つ］八月（元嘉暦九月），**乞伏熾磐**は自ら大将軍、河南王と稱し，大赦し，改元して永康とす；**乾歸**を枹罕に葬し，謚して**武元王**と曰い，廟號を**高祖**とする。

■皇后の**王氏**は崩ず。

●庚戌（１２日），魏主の**嗣**は（出巡して）平城に還る。

西秦九月（元嘉暦十月），河南王の**熾磐**は尚書令の武始の翟勍(てきけい)を以て相國，侍中と為し、太子詹事の**趙景**を御史大夫と為す。尚書令、僕、尚書六卿、侍中等の官を罷む。

■癸酉（６日），**僖皇后**を休平陵に葬す。

【劉裕は劉毅を討伐】

■［劉毅の疾に劉裕は乗じる］**劉毅**は江陵に至り，多く守宰を變易し，輒ち豫州の文武、江州の兵力の萬餘人を割きて以て自ら隨う。會々**毅**は疾篤し，**郗僧施**等は**毅**の死し，其の黨の危きを恐れ，乃ち**毅**に勸めて従弟の兗州刺史の**簫**を以て自ら副とせんことを請はしむ。太尉の**裕**は偽りて之を許す。**簫**は廣陵より入朝し，己卯（１２日），**裕**は詔書を以て**毅**の罪狀として，雲う、

「**簫**及び**謝混**と共に不軌を謀る」

と，**簫**及び**混**を収めて死を賜る。初め，**混**は**劉毅**と款曙(かんじつ)（続は欵昵）し，**混**の従兄の**澹**は常に以て憂いと為し，漸く之と疏なり，弟の**璞**及び従子の**瞻**に謂って曰く、

「**益壽**（混の小字）の此の性は，終に當に家を破るべし。」

澹は，**安**之孫也。

■［司馬休之を荊州刺史に任命］庚辰（１３日），詔して大赦し，前會稽内史の**司馬休之**を以て都督荊、雍、梁、秦、寧、益六州諸軍事、(7-133p)荊州刺史と為す。北徐州刺史の**劉道憐**を兗、青二州刺史と為し，京口に鎮ぜしむ。豫州刺史の**諸葛長民**をして太尉の留府事を監ぜ使む。**裕**は**長民**を疑い獨り任ずるを難きとし，乃ち**劉穆之**に建武將軍を加え，佐吏を置き，資力を配給し以て之を防ぐ。

■［劉裕は荊州に向けて出陣］壬午（１５日），**裕**は諸軍を帥いて建康を發し，參軍の**王鎮惡**は百艚を給して前驅と為るを請う。丙申（２９日），姑孰に至り，**鎮惡**を以て振武將軍と為し，龍驤將軍の**蒯恩**と百艚を將いて前みて發す。**裕**は之を戒めて曰く、

「若し賊擊つ可きは，之を擊て。可からざる者は，其の船艦を燒き，留めて水際に屯して以て我を待て。」

是に於いて**鎮惡**は晝夜兼行し，聲を揚げて言う、

「**劉兗州**(劉藩)は上る」。

■［荊州江陵の劉毅は敗れる］冬，十月（元嘉暦十月閏月），己未（２２日），**鎮惡**は豫章口に至り，江陵城を去ること二十里，船を捨てて歩いて上る。**蒯恩**の軍は前に居り，**鎮惡**は之に次ぐ。艚には一二人を留め，艚に對する岸上には六七旗を立て，旗下には鼓を置き，留まる所の人に語る、

「我が將に城に至らんとするを計り，便ち鼓嚴（軍鼓を叩く）せよ」

と、後に大軍有るが若くの狀にせ令む。

又た人を分けて遣わして江津の船艦を燒かしむ。**鎮惡**は徑(ただち)に前みて城を襲い，前軍の士に語る、

「問う者有れば，但だ**劉兗州**至ると雲え。」

津の戍(まもり)及び民間は皆な晏然として疑わず。未だ城に至らざること五、六里にして，**毅**の要將（兵要を掴む將軍）の**朱顯之**の江津を出んと欲するに逢い，問う、

「**劉兗州**は何くに在るや？」
軍士は曰く、
「後ろに在り。」
顯之は軍の後に至るに，**籓**を見ず，而るに軍人の彭排（軍器、楯の一種で鋒矢を防ぐ）戦具を擔うを見，江津を望めば船艦は已に燒を被り，鼓嚴之聲は甚だ盛んに，**籓**の上るに非ずを知り，便ち馬を躍らせ馳せ去りて**毅**に告げ，行々諸城門を閉め令む。**鎮惡**も亦た馳せて進み，門は未だ關を下すに及ばす，軍人は因りて城に入るを得る。衛軍長史の**謝純**は入りて**毅**に參承し，出でて兵の至るを聞き，左右は車を引いて歸らんと欲す。**純**は之を叱って曰く、
「我は，人の吏也，逃れて將に安(いず)くに之(ゆ)くや！」
馳せ還りて府に入る。**純**は，**安**の兄の**據**之孫也。**鎮惡**は城內の兵と鬥(たたか)い，且つ其の城を攻める。食時より中晡（午後四時くらい）に至り，城內の人は敗れ散る。**鎮惡**は其の金城（城の本丸）を穴して而して入り，人を遣わして詔及び赦文並びに**裕**の手書を以て**毅**に示し，**毅**は皆な燒きて視ず，司馬の**毛修之**等と士卒を督して力戰す。城內の人は猶ほ未だ**裕**の自ら來たるを信じず，軍士の**毅**に從いて東より來たるは，台軍と多く中表（外戚）の親戚なり，且つ鬥い且つ語り，**裕**の自ら來たるを知り，人情は離れ駭く。夜に逮(およ)びて，事を聽く前兵は皆な散り，**毅**の勇將の**趙蔡**を斬り，**毅**の左右の兵は猶ほ東西の閤を閉めて拒み戰う。**鎮惡**は暗中にて自ら相い傷つけ犯す（同士討）を慮り，乃ち軍を引いて出でて金城を圍み，其の南面を開く。**毅**は南に伏兵有るを慮り，夜半，左右三百許りの人を帥いて北門を開いて突出す。**毛修之**は**謝純**に謂って曰く、
「君は但だ僕に隨いて去れ。」
純は從わず，**(7-134p)**人の殺す所と為る。**毅**は夜牛牧佛寺（江陵城の北 20 里）に投ず。初め，**桓蔚**之敗れる也（114 卷元年にあり），走りて牛牧寺の僧**昌**に投じ，**昌**は之を保藏し，**毅**は**昌**を殺す。是に至り，寺僧は之を拒んで曰く、
「昔亡き師は**桓蔚**を容れ，**劉衛軍**の殺す所と為る，今實に敢えて異人を容れず。」
毅は歎じて曰く、
「法を爲(つく)りて自ら弊(やぶ)れ，一に此に至る！」
遂に縊りて而して死す。明くる日，居人は以て告げ，乃ち市に於いて斬首し，幷せて子侄は皆な伏して誅す。**毅**の兄の**模**は襄陽に奔り，**魯宗之**は斬りて之を送る。
■<u>［毅の季父の鎮之は散騎常侍を固辞す］</u>初め，**毅**の季父の**鎮之**は京口に閒居し，辟して召きに應ぜず，常に**毅**及び**籓**に謂って曰く、
「汝輩の才器は，以て志を得るに足りず，但だ久しからずを恐れる耳。我は爾(なんじ)に就き財位を求めず，亦た爾に同じく罪累をも受けず。」
毅、**籓**が導從（先導者と従者）して門に到るを見る毎に、輒ち之を詬(ののし)り，**毅**は甚だ敬い畏れ，未だ宅に至らざること數百步，悉く儀衛を屏(しりぞ)けて，白衣（無位無冠の人）數人と俱に進む。**毅**の死するに及び，太尉の**裕**は奏して**鎮之**を征（続は徵）して散騎常侍、光祿大夫と為す，固辭して至らず。

後秦 仇池［仇池公の楊盛は秦に叛す］仇池公の**楊盛**（義熙元年に秦に降る）は秦に叛し，祁山を侵擾す。秦王の**興**は建威將軍の**趙琨**を遣わして前鋒と為し，立節將軍の**姚伯壽**を之に繼がしめ，前將軍の**姚恢**を鶩峽（甘肅省渭川道戎県の北、成県なら現・隴南市成県）に出でしめ，秦州刺史の**姚嵩**を羊頭峽（甘肅省渭川道泰安県、現・天水

市泰安県）に出でしめ，右衛将軍の**胡翼度**を汧城に出でしめ，以て**盛**を討つ。**興**は雍より之に赴き，諸将と隴口（隴道の口、甘粛省渭川道兩當県、現・隴南市両当県）に於いて會す。

後秦 仇池天水太守の**王松匆**は**嵩**に言って曰く、

「**先帝**の神略は方無く，**徐洛生**は英武を以て命を佐け，再び仇池に入り，功無くして而して還る。**楊氏**の智勇は能く全くするに非ざる也，直だ地勢は險固なる耳。今**趙琨**之衆，使君之威を以て，之を先朝に準じれば，實に未だ成功を見ず。使君は具に形便を悉くし，何んぞ表聞（上表して奏聞する）せざるや！」

嵩は従わず。**盛**は衆を帥いて**琨**と相い持ち，**伯壽**は畏懦して進まず，**琨**の衆は寡く敵せず，**盛**の敗る所と為る。**興**は**伯壽**を斬りて而して還る。

後秦 夏［後秦の楊佛嵩の夏侵攻失敗］**興**は**楊佛嵩**を以て雍州（嶺北の五郡を統べる、安定に治す）刺史と為し，嶺北の見兵を帥いて以て夏を撃つ。行くこと數日にして，**興**は群臣に謂って曰く、

「**佛嵩**は敵を見る毎に，勇は自ら制せず，吾は常に其の兵を節し五千人に過ぎざらしむ。今將いる所は既に多く，敵に遇えば必ず敗れ，行きて已に遠く，之を追いて及ぶ無く，將に之を若何するや？」

佛嵩は夏王の**勃勃**と戦い，果たして敗れ，**勃勃**の執る所と為り，亢（吭、喉）を絕ちて而して死す。

後秦秦は昭儀の**齊氏**を立てて后と為す。

北涼**沮渠蒙遜**は姑臧に遷る。

【反転して諸葛長民誅殺】

■［劉裕は江陵に至る］十一月，己卯（１３日），太尉の**裕**は江陵に至り，**郗僧施**を殺す。初め，**毛修之**は**劉毅**の僚佐と為ると雖も、**(7-135p)**素より自ら**裕**と結び，故に**裕**は特に之を宥す。**王鎮惡**に爵の漢壽子を賜わる。**裕**は**毅**の府の咨議參軍の**申永**に問いて曰く、

「今日何を施して而して可ならんや？」

永は曰く、

「其の宿畔を除き，其の惠澤（恩恵）を倍し，門次（魏晋以来門地を以て任用）を貫敘（銭を貫くを以て叙す）し，才能を顯擢すれば，此くの如く而して已む。」

裕は之を納れる，書を下して租を寬くし調を省き，役を節し刑を原す，名士を禮辟し，荊人は之を悦ぶ。

■［建康の諸葛長民は劉裕に反するか去就を迷う］**諸葛長民**は驕縦にして貪侈，為す所多く不法にして，百姓の患いと為り，常に太尉の**裕**が之を按ずるを懼る。**劉毅**の誅せ被れるに及び，**長民**は親する所に謂って曰く、

「『昔年彭越を醢（ししびしお）にし，今年は**韓信**を殺す。』禍いは其れ至らん矣！」

乃ち人を屏けて**劉穆之**に問いて曰く、

「悠悠之言（世間の風評）は，皆な太尉は我と平らかならずを雲う，何を以て此に至るや？」

穆之は曰く、

「公（劉裕）は流れを溯りて遠征し，老母稚子を以て節下（長民）に委ねる。若し一豪（毛）も盡くせば，豈に此くの如くなる容けん邪！」（少しでも疑い有れば母子を預けられない）

長民の意は乃ち小しく安ず。

長民の弟の輔國大將軍の**黎民**は**長民**に說いて曰く、

「**劉氏**之亡ぶは，亦た**諸葛氏**之懼れ也，宜しく**裕**の未だ還らざるに因りて而して之を圖るべし。」

長民は猶豫して未だ發せず，既に而して歎じて曰く、

「貧賤は常に富貴を思い，富貴は必ず危機を履む。今日丹徒の布衣（長民は丹徒に居る）と為らんと欲す。豈に得る可けん邪！」

因りて冀州刺史の**劉敬宣**に書を遣りて曰く、

「盤龍（劉毅の小字）は狠戾（凶悪残暴）専恣にして，自ら夷滅を取る。異端將に盡きんとし，世路は方に夷げんとし，富貴之事は，相い與に之を共にす。」

敬宣は報じて曰く、

「下官は義熙より以來，三州、七郡（敬宣は北より還り、晉陵太守、江州、尋陽に鎮し、郡事を兼ね、宜城内史、襄城太守、鎮蠻護軍、安豊太守、梁國内史、青州刺史、冀州刺史を歴任）を忝なくし，常に福が過ぎて災いが生じるを懼れ，盈を避け損に居らんを思い。富貴之旨は，敢えて當る所に非ず。」

且つ書を以て**裕**に呈さ使め，**裕**は曰く、

「阿壽（劉敬宣）は故に我に負かずと為す也。」

劉穆之は**長民**が變を為すを憂え，人を屏けて太尉の行參軍の東海の**何承天**（元嘉暦作者）に問いて曰く、

「公は今の行は濟らんや否や？」

承天は曰く、

「荊州は時に判（決定）ぜざるを憂えず，別に一慮有る耳。公は昔年左裡（盧循を破りて還る時）より還りて石頭に入り，甚だ脫爾（軽装にして還り厳備をせず）たり。今還りて，宜しく重慎を加えん。」

穆之は曰く、

「君に非ざれば，此の言を聞かず。」

裕は江陵に在り，輔國將軍の**王誕**は**裕**に白して先ず下るを求め，**裕**は曰く、

「**諸葛長民**は自ら疑う心有るに似たり，卿は詎ぞ宜しく便ち去るべし！」

誕は曰く、

「**長民**は我が公の垂眄（愛顧）を蒙るを知り，今輕身にして單り下れば，必ず當に以て虞い無しと為すべし，乃ち以て少しく其の意を安ず可き耳。」

裕は笑いて曰く、

「卿の勇は賁、育に過ぎる矣。」

乃ち先ず還るを聽す。

北涼［**蒙遜は河西王に即位**］**沮渠蒙遜**（氐、臨松の盧水の胡人）は河西王に即位し，大赦して，改元して玄始とし，官僚を置き涼王の**光**の三河王（107 巻孝武帝太元 14 年にあり）に為るの故事の如し。

■［**蜀討伐に朱齢石を派遣**］太尉の**裕**は蜀を伐たんと謀り，元帥を擇びて而して其の人難し。西陽太守の**朱齢石**が既に武干有り，又た吏職に練れたるを以て，之を用いんと欲す。衆は皆な以て、

「**齢石**の資名は尚ほ輕く，重任に當り難し」

と為し，**裕**は從わず。十二月，**齢石**を以て益州刺史と為し，寧朔將軍の**臧熹**、河間太守の**蒯恩**、下邳太守の**劉鐘**等を帥いて蜀を伐たしめ，大軍之半の二萬人を分けて以て之に配す。**熹**は，**裕**之妻の弟にして，位は**齢石**之右に居り，亦た焉に隸す。

■**裕**は**齢石**と密かに進取を謀り，曰く、

「**劉敬宣**は往年黄虎に出で，功無く而して退く（114 巻四年にあり）。賊は我が今應に外水より往くべしと謂い，而して我が當に其の不意に出でて猶ほ内水より來たると料る也。此くの如く，（賊は）必ず重兵を以て涪城を守り以て内道を備えん。若し（我）黄虎に向かえば，正に其の計に墮ちん。今大衆を以て外水より

成都を取り，疑兵は内水より出れば，此れ敵を制する之奇（策）也。」
而して此の聲が先ず馳せ，賊の虚實を審かにせんとするを慮る。別に函書有りて封じて**齡石**に付け，函邊に署して曰く、
「白帝に至れば乃ち開くべし。」
諸軍は進むと雖も，未だ處分の由る所を知らず。
■**毛修之**は固く行くを請い，**裕**は**修之**の蜀に至れば，必ず誅殺する所多く，土人毛氏（毛の家は蜀人の滅ぼす所となる）と嫌有れば，亦た當に死を以て自ら固むべきを恐れ，許さず。
■荊州の十郡を分けて湘州を置く。（成帝咸和三年湘州を省きて荊州に入れるも、また置く）
■太尉の**裕**に太傅、揚州牧を加える。
●丁巳（２１日），魏主の**嗣**は北を巡り，（萬里の）長城に至りて而して還る。

安皇帝辛義熙九年（癸丑，４１３年）

●春，二月，庚戌（１５日），魏主の**嗣**は高柳川（山西省雁門道陽高県、現・大同市陽高県）に如く。甲寅（１９日），宮に還る。
■［劉裕は急に建康に還り、諸葛長民誅殺］太尉の**裕**は江陵より東に還り，駱驛として輜重を遣り兼行して而して下らしめ，前に至日を刻し(到着予定日を定める)，每(つね)に淹留して進まず。**諸葛長民**は公卿と頻日、新亭に奉候し，輒ち其の期に差あり。乙丑（３０日）晦，**裕**の輕舟は徑(ただ)ちに進み，潛かに東府に入る。三月，丙寅（１日）朔の旦，**長民**は之を聞き，驚きて趨きて門に至る。**裕**は壯士の**丁晤**を幔中に伏し，**長民**を引いて人を卻(しりぞ)けて閒語し，凡そ平生盡くさざる所の者皆な之に及び，**長民**は甚だ悦ぶ。**丁晤**は幔の後より出で，座に於いて之を拉殺し，屍を輿にして廷尉に付ける。其の弟の**黎民**を収め，**黎民**は素より驍勇なり，格鬥(かくとう)し而して死す。並せて其の季弟の大司馬參軍の**幼民**、從弟の寧朔將軍の**秀之**を殺す。**(7-137p)**

後秦庚午（５日），秦王の**興**は遣使して魏に至り修好す。
■［土斷の方針］太尉の**裕**は上表して曰く、
「大司馬の**溫**は『民に定本無く，以て治を傷けるに深しと為す』，《庚戌（の制度、101 卷哀帝に見える）》土斷して以て其の業を一とする。是に於いて財は阜(おお)く國は豐なり，實に此に由る。茲(これ)より今に迄(いた)るまで，漸く用て頽馳す。請う前制を申(かさ)ねん。」
是に於いて界に依りて土斷（検地）し，唯だ徐、兗、青三州の晉陵（三州の治所は率ね晉陵に治す、故に土斷できず）に居る者は，斷の例に在らず。諸々の流寓の郡縣は並び省く所多し。
■戊寅（１３日），**裕**に豫州刺史を加える。**裕**は固く太傅、州牧を讓る。
■林邑の**范胡達**は九真を寇し，**杜慧度**は擊ちて之を斬る。

西秦［河南王の熾磐は休官を降す］河南王の**熾磐**は鎮東將軍の**曇達**、平東將軍の**王松壽**を遣わして兵を將いて東に休官の**權小郎**、**呂破胡**を白石川（白阮、甘肅省蘭山道導河県、現・臨夏回族自治州臨夏市）に擊ち，大いに之を破り，其の男女萬餘口を虜にして，進みて白石城に據る。顯親（県、甘肅省天水県西北、後漢～北周、現・天水市）の休官の**權小成**、**呂奴迦**等二萬餘戸は白坑に據りて服せず，**曇達**は攻めて之を斬り，隴右の休官は悉く降る。秦の太尉の**索稚**（七年秦は隴西を守らせ、乞伏を相撫させる）は隴西を以て**熾磐**に降り，**熾磐**は**稚**を以て太

傅と為す。

【夏の統萬城の建設】

夏［統萬城の建設、錐が一寸入れば殺す］夏王の**勃勃**は大赦し，改元して鳳翔とす。**叱干阿利**を以て將作大匠を領さしめ，嶺北の夷、夏十萬人を發して都城を朔方水（奢延水、甘粛省楡林道から黄河に流れる、枯川、無定河）の北、黒水（オルドスの烏蘭木倫河）之南に於いて築く。**勃勃**は曰く、

「**朕**は方に天下を統一し，萬邦に君臨し，宜しく新城を名づけて統萬と曰わん。」

阿利は性は巧に而して殘忍，土を蒸して城を築き，錐が一寸入れば，即ち作る者を殺し而して幷（この場合は生き埋めの意）せて之を築く。**勃勃**は以て忠と為し，之に委任す。凡そ兵器を造り、成りて之を呈すれば，工人は必ず死者有り，甲を射て入らざれば則ち弓人を斬り，入れば則ち甲匠を斬る。又た銅を鑄て一大鼓、飛廉、翁仲、銅駝、龍虎之屬を為り，飾るに黄金を以てし，宮殿之前に列べる。凡そ工匠を殺すは數千，是に由りて器物は皆な精利なり。

夏［勃勃が赫連を名乗る所以］**勃勃**は自ら謂う、其の祖は母姓に從いて劉（漢の高祖が冒頓単于に娶し、兄弟となりて劉を称す）と為る，禮に非ざる也。古人は氏族は常無し，乃ち改姓して赫連氏とし，**帝王**は天に系りて子為り，其の徽赫は與に天に連らなりと言う也。其の正統に非らざる者は，皆な鐵伐（勃勃の父衛辰の姓は鐵弗、正統でない者を鐵伐氏とす）を以て氏と為し，其の剛鋭は鐵の如し，皆な人を伐つに堪えるを言う也。

●［魏は越勤部を跋那山に討つ］夏，四月，乙卯（２１日），魏主の**嗣**は西を巡り，鄭兵（北史には都兵）將の**奚斤**、鴻飛將軍（拓跋氏独自の将軍名）の**尉古真**、都將の**閭大肥**等に命じて越勤（北史太宗宗記には越勒）部を跋那山（廣寧郡の塞外にあり、廣寧郡は古く上谷に属す）に擊たしむ。**(7-138p)大肥**は，柔然人也

西秦［西秦は吐谷渾を伐つ］河南王の**熾磐**は安北將軍の**烏地延**、冠軍將軍の**翟紹**を遣わして吐谷渾の別統（別に部落を統べる者）の**句旁**を泣勤川（甘粛省臨澤県新城郷南、現・張掖市臨沢県）に於いて擊ち，大いに之を破る。

北涼河西王の**蒙遜**は子の**政德**を立てて世子と為し，鎮衛大將軍を加え、尚書事を錄せしむ。

南涼 北涼［南涼は蒙遜を伐ち、逆襲されて樂都を圍まれる］南涼王の**傉檀**は河西王の**蒙遜**を伐ち，**蒙遜**は之を若厚塢（甘粛省西寧道碾伯県、現・海東市樂都区）に敗り，又た之を若涼（甘粛省西寧道碾伯県、現・海東市樂都区）に敗る。因りて進みて樂都を圍み，二旬克たず。南涼の湟河太守の**文支**は郡を以て**蒙遜**に降り，**蒙遜**は**文支**を以て廣武太守と為す。**蒙遜**は復た南涼を伐ち，**傉檀**は太尉の**俱延**を以て質と為し，乃ち還る。

北涼**蒙遜**は西に苕藿（続、苕台×）に如き，冠軍將軍の**伏恩**を遣わして騎一萬を將して卑和（羌）、烏啼（羌）の二部を襲い，大いに之を破り，二千餘落を俘にして而して還る。

北涼**蒙遜**は新台に寢ね，閽人の**王懷祖**は**蒙遜**を擊ち，足を傷つく。其の妻の**孟氏**は禽えて之を斬る。**蒙遜**の母の**車氏**は卒す。

●五月，乙亥（１１日），魏主の**嗣**は雲中の舊宮に如く。丙子（１２日），大赦す。西河の**胡張外**等は衆を聚めて盜を為す。己卯（１５日、続は乙卯は誤りとする、正解），**嗣**は會稽公の長樂の**劉絜**等を遣わして西河に屯し之を招討せしむ。六月，**嗣**は五原に如く。

【朱齡石の蜀の制圧】

■蜀［朱齡石は函書を開けて、速戦す］**朱齡石**等は白帝に至り函書（前年劉裕が渡す）を發いて，曰く、

「衆軍は悉く外水に從いて成都を取れ。**臧熹**は中水に從いて廣漢を取り，老弱は高艦十餘に乘り，內水に

従いて黄虎に向かえ。」（現在の重慶、巴郡より黄虎経由の内水、廣漢経由の中水、南廻り平模経由の外水）
是に於いて諸軍は倍道兼行す。**譙縦**は果たして**譙道福**に命じて重兵を将いて倍城に鎮せしめ，以て内水に備える。**齮石**は平模（四川省建昌道彭山県、現・眉山市彭山区）に至り，成都を去ること二百里，**縦**は秦州刺史の**侯暉**、尚書僕射の**譙詵**を遣わして衆萬餘を帥いて平模に屯し，岸を夾んで築城して以て之を拒む。**齮石**は**劉鐘**に謂って曰く、
「今天の時は盛んに熱し，而して賊は嚴兵して險を固め，之を攻めても未だ必ずしも抜く可からず，只（続は祇）だ疲睏を増さんのみ。且く鋭を養いて兵を息めて以て其の隙を伺わんと欲す，何如や？」
鐘は曰く、
「然らず。前に揚聲して言はく、大衆内水に向かうと。**譙道福**は敢えて涪城を捨てず。今重軍は猝に至り，其の不意に出でれば，**侯暉**之徒は已に膽を破れり矣。賊は兵を阻んで險を守る者，是れ其の敢えて戦わざるを懼る也。其の兇懼（恐懼）するに因りて、鋭を盡くして之を攻めれば，其の勢いは必ず克たん。平模に克つ之後，自ら鼓行して而して進む可し。成都は必らず守る能わず矣。若し兵を緩にして相い守れば，彼は将に人の虚實を知らんとす。涪の軍は忽ち來たりて，力を幷せて我を拒まん。人情は既に安く，良將は又た集まる。此れ戦いを求めるとも獲ず，軍食に資無く，二萬餘人は悉く蜀子の虜と為らん矣。」
齮石は之に従う。
■蜀諸将は水北の城は地險しく兵多しを以て，先に其の南城を攻めんと欲す。**齮石**は曰く、
「今南城を屠れども，以て北を破るに足らず，若し鋭を盡くして以て北城を抜けば，則ち南城は麾かずして自ら散ず矣。」
秋，七月，**齮石**は諸軍を帥いて急に北城を攻め，之に克ち，**侯暉**、**譙詵**を斬る。兵を引いて回りて南城に趣き，（7-139p）南城は自ら潰ゆ。**齮石**は船を捨てて歩みて進む。**譙縦**の大將の**譙撫之**は牛脾（四川省西川道簡陽県、現・成都市簡陽県）に屯し，**譙小苟**は打鼻（四川省建昌道彭山県、現・眉山市彭山区）を塞ぐ。**臧熹**は**撫之**を撃ち，之を斬る。**小苟**は之を聞き，亦た潰ゆ。是に於いて**縦**の諸營屯は風を望みて相い次いで奔潰す。
■蜀［成都陥落と譙縦らの滅亡］戊辰（５日），**縦**は成都を棄てて出でて走り，尚書令の**馬耽**は府庫を封じて以て晉師を待つ。壬申（９日），**齮石**は成都に入り，**縦**の同祖之親を誅して，餘は皆な按堵し，其の業に復せ使む。**縦**は成都を出る。先ず墓に辭し，其の女は曰く、
「走るとも必ず免れざれん，只（続は祇）だ辱めを取らん焉。等しく死すなら，先人之墓に於いて死せんは可なり也。」
縦は從わず。**譙道福**は平模の守られざるを聞き、涪より兵を引いて入り赴き，**縦**は往きて之に投ず。**道福**は**縦**を見，怒りて曰く、
「大丈夫は此くの如き功業有り而して之を棄て，將に安くに歸せん乎！人は誰か死せざらん，何ぞ怯える之甚だしき也！」
因りて**縦**に投ずるに劍を以てし，其の馬の鞍に中たる。**縦**（義熙元年に蜀を取りて九年、滅びる）は乃ち去り，自ら縊れて死し，巴西人の**王志**は其の首を斬りて以て**齮石**に送る。**道福**は其の衆に謂って曰く、
「蜀之存亡は，實に我に繫り，**譙**王に在らず。今我在り，猶ほ一戦に足らん。」
衆は皆な許諾す。**道福**は盡く金帛を散じて以て衆に賜り，衆は之を受けて而して走る。**道福**は獠中に走り，巴民の**杜瑾**は執りて之を送り，軍門に於いて斬る。**齮石**は**馬耽**を越嵩に徙し，**耽**は其の徒に謂って曰く、
「**朱侯**は我を京師に送らず，口を滅せんと欲す也，吾は必らず免れず。」（齮石は多く庫物を取り、馬耽を殺して口

封じを図る）
乃ち盥洗して而して臥し，繩を引いて而して死す。須臾にして，**齮石**の使いは至り，其の屍を戮す。詔して**齮石**を以て進めて梁、秦州六郡諸軍事を監ぜしめ，爵を賜りて豐城縣侯とす。

●魏の**奚斤**等は**越勤**を跋那山の西に於いて破り，二萬餘家を大寧（直隸省口北道宣化県、現・張家口市）に徙す。
●河西の**胡曹龍**等は部衆二萬人を擁して來たりて蒲子（山西省河東道隰県、現・臨汾市隰県）に入り，**張外**は之に降り，**龍**を推して大單于と為す。
●丙戌（２３），魏主の**嗣**は定襄（郡に駱県あり、現・フフホト市周辺）の大洛城に如く。
西秦［西秦は吐谷渾を伐つ］河南王の**熾磐**は吐谷渾の**支旁**を長柳川（青海の近く）に撃ち，**旁**及び其の民五千餘戸を虜にして而して還す。
●八月，癸卯（１１日），魏主の**嗣**は平城に還る。
●**曹龍**は魏に降るを請い，執りて**張外**に送り，之を斬る。
●丁丑（九月なら１５日），魏主の**嗣**は豺山宮に如く。癸未（九月なら２１日），還る。
■九月，再び太尉の**裕**に命じて太傅、揚州牧と為す。固辭す。
西秦［西秦は吐谷渾を伐つ］河南王の**熾磐**は吐谷渾の別統の**掘逵**を渭渾川に撃ち，大いに之を破り，男女二萬三千を虜にす。冬，十月，**掘逵**は其の餘衆を帥いて**熾磐**に降る。
●［北魏と夏のせめぎ合い］吐京（山西省河東道石樓県付近、現・呂梁市石楼県）胡は離石胡の**出以眷**と與に魏に叛し，魏主の**嗣**は元城侯の**屈**に命じて會稽公の**劉冨**、（7-140p）永安侯の**魏勤**を督して以て之を討たしむ。丁巳（１６日），**出以眷**は夏兵を引いて**冨**を邀撃し，之を禽にし，以て夏に獻ず。**勤**は戰死す。**嗣**は**屈**の二將を亡（うしな）うを以て，之を誅さんと欲す。既に而して之を赦し，并州刺史を攝せ使む。**屈**は州に到り，酒を縱（ほしいまま）にして事を廢し，**嗣**は其の前後の罪惡を積みて，檻車を征（続は徴）して還る。之を斬る。
●［魏と秦の通婚］十一月，魏主の**嗣**は遣使して昏（婚）を秦に請い，秦王の**興**は之を許す。
■［索邈の姜顯に復讐せず］是の歲，敦煌の**索邈**を以て梁州刺史と為し，**苻宣**（漢中に入るは 114 巻元年にあり）は乃ち仇池に還る。初め，**邈**は漢川に寓居し，別駕の**姜顯**と隙有り，凡そ十五年而して**邈**は漢川に鎮す。**顯**は乃ち肉袒（肩脱ぎして肉体の一部を現すこと、降伏・謝罪）して迎候し，**邈**は慍（うら）む色無く，之を待つこと彌々厚し。退きて而して人に謂って曰く、
「我は昔此に寓し，志を失うこと多年，若し**姜顯**に仇せば，懼れる者は少なからず。但だ之に服して自ら佳とする，何の必ず志を逞（たくま）しくせんや！」
是に於いて闔境（こうきょう）（すべて残らず）之を聞き皆な悦ぶ。

（★★★この 413 年、義熙九年、高句麗・倭国及び西南夷の銅頭大師が安帝に貢物を献ずる。『晋書』安帝紀）
この記事を「宋書倭国伝」の４２１年の倭王・讃の朝貢記事と関連づけるのが一般的。『太平御覧』に引用の『義熙起居注』には倭国は貂皮・人参を献上というが、これは高句麗の産物。小林惠子は高句麗好太王が倭王・讃となり、晉に承認を求めたとする。

安皇帝辛義熙十年（甲寅，４１４年）

●春，正月，辛酉（１日），魏は大赦し，改元して神瑞とす。
●辛巳（１１日），魏主の**嗣**は繁畤に如く。二月，戊戌（９日），平城に還る。

夏夏王の**勃勃**は魏の河東の蒲子を侵す。

●庚戌（２１日），魏主の**嗣**は豺山宮に如く。

●魏の并州刺史の**婁伏連**は夏の置く所の吐京の護軍（前年夏が置いた）及び其の守兵を襲いて殺す。

■［司馬休之の子の文思の処分を巡る対立］**司馬休之**は江陵に在り，頗る江、漢の民心を得る。子の譙王（譙王尚之が桓玄の難に死すを以て後をつがしめた）の**文思**は建康に在り，性は凶暴，好く輕俠に通じる。太尉の**裕**は之を惡む。三月，有司は**文思**を奏すも

「擅（ほしいまま）に國吏を捶殺す」，

詔して其の黨を誅し而して**文思**を宥す。**休之**は上疏して謝罪し，任ずる所を解くを請う。許さず。**裕**は**文思**を執りて**休之**に送り，自ら訓厲せ令め，意は**休之**が之を殺すを欲す。**休之**は但だ**文思**を廢するを表す。並せて**裕**に書を與えて陳謝する。**裕**は是に由りて悦ばず，江州刺史の**孟懐玉**を以て豫州六郡（宜城・襄城・淮南・盧江・安豊・歷陽）を兼ね督さしめて以て之に備える。

●夏，五月，辛酉（３日），魏主の**嗣**は平城に還る。

【後秦の後継者を巡る混乱】

後秦秦の後將軍の**斂成**は羌の叛するを討ち，羌の敗らるる所と為り，罪を懼れ，夏に出奔す。

後秦［姚興発病］秦王の**興**は疾有り，妖賊の**李弘**は氐の**仇常**と與に武城に於いて反し，**興**は疾を輿（よ）して往きて之を討ち，**常**を斬り，**弘**を執りて而して還る。

後秦［廣平公の弼の党は太子となるを画策す］秦の左將軍の**姚文宗**は**太子**の**泓**に寵有り，廣平公の**弼**は之を惡み，**文宗**を怨言有りと誣（そし）る。秦王の**興**は怒り，**文宗**に死を賜り，是に於いて群臣は**弼**を畏れて目を側だてる。**弼**は**興**に言うに，從わざる者無しと。親する所の天水の尹の**沖**を以て給事黃門侍郎と為し，**唐盛**を治書侍御史と為し，(7-141p)**興**の左右の機要を掌する者は，皆な其の黨也。右僕射の**梁喜**、侍中の**任康**、亦た京兆尹の**尹昭**は間を承け**興**に言って曰く、

「父子之際は，人の言い難き所なり。然れど君臣之義は，父子より薄からず，故に臣等は默然とするを得ず。廣平公の**弼**は，潛かに嫡を奪う之志有り，**陛下**は之を寵すること太（はなは）だ過ぎ，其の威權を假り，傾險無賴之徒は輻湊して之に附く。道路は皆な言う**陛下**は將に廢立之計有らんとし，信ずるに之有るか乎！」

興は曰く、

「豈に此れ有る邪！」

喜等は曰く、

「苟くも之無ければ，則ち**陛下**が**弼**を愛するは，適々（たまたま）之に禍いする所以なり。願はくは其の左右を去り，其の威權を損せれば，此くの如く，特に**弼**を安ずるのみに非ず，乃ち宗廟社稷を安んずる所以なり。」

興は應ぜず。大司農の**竇溫**（とうおん）、司徒左長史の**王弼**は皆な密かに疏して**興**に、

「**弼**を立てて**太子**と為せ」

と勸めて，**興**は從わずと雖も，亦た責めざる也。

後秦［興の疾は篤く，弼反乱計画動く、興は回復］**興**の疾は篤く，**弼**は潛かに衆數千人を聚め，亂を作（な）さんと謀る。**姚裕**は遣使して**弼**の逆狀を以て諸兄の籓鎮に在る者に告げ，是に於いて**姚懿**（興の子）は兵を蒲孤に治し，鎮東將軍、豫州牧の**洸**（興の子）は兵を洛陽に治し，平西將軍の**諶**は兵を雍に治し，皆な長安に赴いて**弼**を討たんと欲す。會々（たまたま）**興**の疾は瘳（い）え，群臣を見，征虜將軍の**劉羌**は泣いて以て**興**に告げる。**梁喜**、**尹昭**は**弼**を誅するを請い，且つ曰く、

「苟くも**陛下**は**弼**を殺すを忍ばずんば，亦た當に其の權任を奪うべし。」
興は已むを得ず，**弼**の尚書令を免じ，將軍、公（大将軍・廣平公）を以て第に還ら使む。**懿**等は各々兵を罷む。
後秦［**弼の処分に興は悩みに悩む**］**懿**、**洸**、**諶**は**姚宣**と皆な入朝し，**裕**をして入りて**興**に白さ使め，見るを求め，**興**は曰く、
「汝等は正に**弼**の事を論ぜんと欲する耳，吾は已に之を知る。」
裕は曰く、
「**弼**は苟くも論ず可き有れば，**陛下**は宜しく垂聽すべき所なり。若し**懿**等の言が是(ぜ)に非ずば，便ち當に之を刑辟に置くべく，奈何して逆め之を抵(ぬぐ)わん！」
是に於いて**懿**等を諮議堂に引見す。**宣**は流涕して極言し，**興**は曰く、
「吾は自ら之を處さん，汝が曹(ともがら)の憂うる所に非ず。」
撫軍東曹屬の**姜虬**は上疏して曰く、
「廣平公の**弼**は，逆を成すの釁(きん)は著(あきら)かなるは，道路は皆な之を知る。昔**文王**之化は，寡妻（詩大雅思齋に、寡妻に刑し兄弟に至ると）に刑す。今聖朝之亂は，子を愛すより起こる，忍を含んで掩蔽せんと欲すと雖も，而して逆黨は扇（動）惑（乱）して已まず，**弼**之亂心は何に由りてか革(あらたま)る可きや！宜しく兇徒を（排）斥散し，以て禍の端を絕つべし。」
興は**虬**の表を以て**梁喜**に示して曰く、
「天下の人は皆な吾が兒を以て口實（常に口を去らない）と為す，將に何を以てか之を處さんや？」
喜は曰く、
「信(まこと)に**虬**の言の如し，**陛下**は早く宜しく裁決すべし。」
興は默然とす。

【乞伏熾磐は傉檀留守の樂都を陥落す】

南涼［**乙弗の反乱鎮圧**］唾契汗（乙弗に契翰の一部あり、吐谷渾の北）、乙弗等の部は皆な南涼に叛し，南涼王の**傉檀**は之を討たんと欲し，邯川護軍の**孟愷**は諫めて曰く、
「今は連年饑饉にして，南に**熾磐**は逼り，北に**蒙遜**は逼り，百姓は安ぜず。遠征は克つと雖も，必ず後患有り。**熾磐**と結盟して糴を通じ，雜部を慰撫し，食足りて兵を繕い，時を俟ちて而して動くに如かず。」
傉檀は從わず，**太子**の**虎台**に謂って曰く、
「**蒙遜**は近ごろ去り，猝(にわか)に來る能わず，**(7-142p)**旦夕慮る所，唯だ**熾磐**に在り。然るに**熾磐**の兵は少なく禦ぎ易し，汝は謹んで樂都（甘肅省西寧道碾伯県、現・青海省海東市樂都区）を守り，吾は一月に過ぎず必ず還らん矣。」
乃ち騎七千を帥いて乙弗を襲い，大いに之を破り，馬牛羊四十餘萬を獲る。
西秦 南涼［**熾磐は樂都を襲う**］河南王の**熾磐**は之を聞き，東都を襲わんと欲す。群臣は鹹な以て不可と為す。太府主簿の**焦襲**は曰く、
「**傉檀**は近患（蒙遜と熾磐）を顧みず而して遠利（乙弗）を貪り，我は今之を伐ち，其の西路（樂都の西路、傉檀が乙弗から還る道）を絕ち，還り救うを得ざら使む。則ち**虎台**は獨り窮城を守り，坐して禽となる可き也。此くは天亡ぼす之時，必ず失う可からず。」
熾磐は之に從い，步騎二萬を帥いて樂都を襲う。**虎台**は城を憑(たのみ)て拒み守り，**熾磐**は四面から之を攻む。
南涼［**太子虎台は晉人を疑う**］南涼の撫軍從事中郎の**尉肅**は**虎台**に言って曰く、

「外城は廣大にして守り難し，**殿下**は國人（鮮卑の禿髪の種落）を聚めて内城を守るに若かず，**肅**等は晉人（中華民族、涼の国々は胡族と華族半々で構成）を帥いて外に拒ぎ戦えば，捷たざる有りと雖も，猶ほ自ら存すに足らん。」

虎台は曰く、

「**熾磐**は小賊なり，旦夕當に走らんとし，卿は何ぞ慮の過ぎる之深きや！」

虎台は晉人の異心有るを疑い，悉く豪望の謀勇有る者を召して之を内に閉じる。**孟愷**は泣いて曰く、

「**熾磐**は虚に乗り内に侮り，國家は累卵の危きにあり。**愷**等は進みて恩に報いんと欲し，退きて妻子を顧み，人々は死を效さんと思う，而るに殿下は乃ち之を疑いて是くの如き邪！」

虎台は曰く、

「吾は豈に君之忠篤きを知らず，餘人の脫しくは慮表を生じるを懼れ，君等を以て之を安んじる耳。」

南涼［樂都陥落］一夕（晉書の西晋載記・南涼載記には一旬とす），城は潰え，**熾磐**は樂都に入り，平遠將軍の**捷度**（乞伏）を遣わして騎五千を帥いて**傉檀**を追わしめ，鎮南將軍の**廉屯**（乞伏）を以て都督河右諸軍事、涼州刺史と為し，樂都に鎮ぜしむ。**禿髪赴單**を西平太守と為し，西平に鎮ぜしむ。**趙恢**を廣武太守と為し，廣武に鎮ぜしむ。曜武將軍の**王基**を晉興太守と為し，浩亹に鎮ぜしむ。**虎台**及び其の文武百姓萬餘戸を枹罕に徙す。**赴單**は，**烏孤**之子也。

【北燕と柔然の複雑な人の動き】

▲［北燕は長樂の民を徙民、馮丕を高句麗から迎える］河間人の**褚匡**は燕王の**跋**に謂って曰く、

「**陛下**は遼、碣に龍飛し，舊邦の族黨（長樂にいる者）は，首を朝陽に傾け，日を以て歳と為し，請う往きて之を迎えんと欲す。」

跋は曰く、

「道路は數千里，復た異國を隔てん，如何して致す可けんや？」

匡は曰く、

「章武（郡名、現・廊坊市一帯。馮跋は長樂信都の出身。章武郡は晉漢の渤海を分けて置く、信都より章武に至り海に浮かびて遼西に至る、馮跋は海夷ともいう）は海に臨み，舟楫は通う可し，遼西の臨渝（奉天省遼瀋道錦県、現・錦州市凌海市）に出でるは，難きと為さざる也。」

跋は之を許す，**匡**を以て游撃將軍、中書待郎と為し，資を厚くして之を遣わす。**匡**は**跋**の從兄の**買**、從弟の**睹**と長樂（直隷省保定道冀県、現・衡水市冀州区）より五千餘戸を帥いて和龍に歸り，契丹、庫莫奚は皆な燕に降る。**跋**は其の大人を署して歸善王と為す。**跋**の弟の**丕**は亂を避けて高句麗に在り，**跋**は之を召して，(7-143p)以て左僕射と為し，常山公に封じる。（馮丕は、後燕→高句麗→北燕→北魏と移る重要人物）

▲［柔然の步鹿真は斛律を北燕に遣りて自ら立つ］柔然可汗の**斛津**は將に女を燕に嫁せんとし，**斛律**の兄の子の**步鹿真**は**斛律**に謂って曰く、

「幼女は遠く嫁して憂思せん，請う大臣の**樹黎**等の女を以て媵（側室、正室に同族女性が側室として従う）と為さん。」

斛律は許さず。**步鹿真**は出でて，**樹黎**等に謂って曰く、

「**斛律**は汝の女を以て媵と為し，遠く他國に適かしめんと欲す。」

樹黎は恐れ，**步鹿真**と謀りて勇士をして夜**斛律**の穹廬之後に伏せ使め，其の出でるを伺いて而して之を執り，女と與に皆な燕に送り，**步鹿真**を立てて可汗と為し而して（樹黎自ら）之に相たり。

▲［柔然の大檀立つ、牟汗紇升蓋可汗］初め，**社侖**之高車に徙る也（112 巻元興元年にあり），高車人の**叱洛侯**は之が郷導を為し以て諸部を幷し，**社侖**は之を徳とし，以て大人と為す。**步鹿真**は**社侖**之子の**社拔**と共に**叱洛侯**の家に至り，其の少妻に淫し，妻は**步鹿真**に告げて曰く、

「**叱洛侯**は**大檀**を奉じて主と為さんと欲す。」

大檀なる者は，**社侖**の季父の**僕渾**之子也，別部を領し西境に鎮し，素より衆心を得る。**步鹿真**は歸り而して兵を發して**叱洛侯**を圍み，**叱洛侯**は自殺す。遂に兵を引いて**大檀**を襲い，**大檀**は逆え撃ちて，之を破り，**步鹿真**及び**社拔**を執りて，之を殺し，自ら立ちて可汗と為り，號して**牟汗紇升蓋可汗**とす。

▲［斛律は北燕の支援で帰還を謀るも誅殺される］**斛律**は和龍に至り，燕王の**跋**は**斛律**に爵を賜りて**上谷侯**とし，之を遼東に館し，待つに客禮を以てし，其の女を納れて昭儀と為す。**斛律**は上書して其の國に還るを請い，**跋**は曰く、

「今國を度（続は棄）ること萬里，又た内應無し，若し重兵を以て相い送れば，則ち饋運繼ぎ難し。兵は少なければ則ち功を成すに足らず，如何して還る可きや？」

斛律は固く請いて，曰く、

「重兵を煩わさず，願はくは三百騎を給い，送りて敕勒に至らん。國人は必ず欣然として來たり迎えん。」

跋は乃ち單于前輔の**萬陵**を遣わして騎三百を帥いて之を送らしむ。**陵**は遠役を憚り，黒山（綏遠和林格爾県の北、現・フフホト市ホリンゴル県）に至り，**斛律**を殺して而して還る。**大檀**は亦た遣使して馬三千匹、羊萬口を燕に獻ず。

●六月，泰山太守の**劉研**等は流民七千餘家を帥い，河西の胡酋の**劉遮**等は部落萬餘家を帥い，皆な魏に降る。

●戊申（２０日），魏主の**嗣**は豺山宮に如く、丁亥（５９日?），平城に還る。

【禿髪傉檀は乞伏熾磐に降り、毒殺】

南涼［南涼滅亡、傉檀は熾磐に降伏］樂都之潰える也，南涼の安西將軍の**樊尼**（烏孤の子）は西平より奔りて南涼王の**傉檀**に告げ，**傉檀**は其の衆に謂って曰く、

「今妻子は皆な**熾磐**の虜する所と為り，退くに歸る所無し，卿等は能く吾と與に乙弗之資に籍り，**契汗**を取り以て妻子を贖わん乎？」

乃ち兵を引いて西す。衆は多く逃げ還り，**傉檀**は鎮北將軍の**段苟**を遣わして之を追わしめ，**苟**は亦た還らず。是に於いて將士は皆な散じ，唯だ**樊尼**（烏孤の子）と中軍將軍の**紇勃**、後軍將軍の**洛肱**、散騎侍郎の**陰利鹿**とのみ去らず。**傉檀**は曰く、

「**蒙遜**（112 巻隆安五年に利鹿孤に臣と称する）、**熾磐**（111 巻隆安四年に称藩）は昔皆な質を吾に委ね，今而して之に歸し，亦た鄙しからず乎！四海之廣きに，身を容れる所無く，何ぞ其の痛ましき也！其の與に聚まりて而して同じく死せんよりは，分かれて而して或いは全くすに若かず。**樊尼**は，吾が長兄之子なり，宗部の寄る所なり。吾が衆は北に在る者は戸は一萬に垂々とし，**(7-144p) 蒙遜**は方に士民を招き懷しみ，亡を存し絕を繼ぎ，汝は其れ之に從へ。**紇勃**、**洛肱**も亦た**尼**と俱に行け。吾は年老いて矣，適く所容れられず，寧ろ妻子を見て而して死なん！」

遂に**熾磐**に歸し，唯だ**陰利鹿**は之に隨う。**傉檀**は**利鹿**に謂って曰く、

「吾が親屬は皆な散り，卿は何ぞ獨り留まるや？」

利鹿は曰く、

「臣の老母は家に在り，歸るを思わざるに非ず。然れども質を委ねて臣と為り，忠孝之道は，以て兩つながら全くし難し。臣は才あらず，**陛下**の為に泣血して鄰國に救いを求めるは難からず，敢えて左右を離れん乎！」

傉檀は歎じて曰く、

「人を知るは固に未だ易からず。大臣親戚は皆な我を棄てて去り，今日忠義の終始虧けざる者は，唯だ卿一人而して已！」

南涼 西秦 **［獨り尉賢政は降らず］傉檀**の諸城は皆な**熾磐**に降り，獨り**尉賢政**は浩宜に屯して，固く守りて下らず。**熾磐**は人を遣わして之に謂って曰く、

「樂都は已に潰え，卿の妻子は皆な吾が所に在り，獨り一城を守り，將に何を為す也？」

賢政は曰く、

「涼王の厚恩を受け，國の籓屏と為る。樂都の已に陥ち，妻子は禽と為る。先ず歸して賞を獲，後に順えば誅を受けるを知ると雖も、然れども**主上**（傉檀）の存亡を知らず，未だ敢えて命に歸せず。妻子は小事なり，豈に心を動かすに足らん！若し一時之利を貪り，委付之重き者を忘れれば，**大王**は亦た安んぞ之を用いん！」

熾磐は乃ち**虎台**を遣わして手書を以て之を諭し，**賢政**は曰く、

「汝は儲副と為り，節を盡くす能わず，人に面縛し，父を棄て君を忘れ，萬世之業を墮とす。**賢政**は義士なり，豈に汝に效わん乎！」

傉檀の左南（甘肅省西寧道碾伯県、現・海東市樂都区）に至るを聞き，乃ち降る。

南涼 西秦 **［傉檀はその後鴆せられ、一族は北涼、ついで魏に奔る］熾磐**は**傉檀**が至るを聞き，遣使して郊に迎え，待ちて上賓之禮を以てす。秋，七月，**熾磐**は**傉檀**を以て驃騎大將軍と為し，爵を賜って左南公とす。南涼の文武，依才に依りて銓敘（選考叙任）す。歳餘にして，**熾磐**は使人をして**傉檀**を鴆せ使む。左右は之を解かんと請い，**傉檀**は曰く、

「吾が病は豈に宜しく療すべき邪！」

遂に死し，謚して**景王**と曰う。(南涼は三世１９年にて滅びる)**虎台**も亦た**熾磐**の殺す所と為る。**傉檀**の子の**保周**、**賀**，**俱延**の子の**覆龍**，**利鹿孤**の孫の**副周**，**烏孤**の孫の**承鉢**は，皆な河西王の**蒙遜**に奔る。之久しく，又た魏に奔る。魏は**保周**を以て張掖王と為し，**覆龍**を酒泉公と為し，**賀**を西平公，**副周**を永平公，**承鉢**を昌松公とす。

●魏主の**嗣**は**賀**之才を愛し，謂って曰く、

「卿之先は**朕**と源を同じくす。」

姓の源氏を賜わる。

●**［魏は於什門を馮跋に遣わし、受詔さすも成さず］**八月，戊子（１日），魏主の**嗣**は馬邑侯の**陋孫**を遣わして秦に使いせしむ。辛丑（４日），謁者の**於什門**を遣わして燕に使いせしめ，**悦力延**をして柔然に使いせしむ。**於什門**をして和龍に至り，肯えて入りて見えずして，曰く、

「大魏の**皇帝**は詔有り，須らく**馮王**は出でて受くべし，然る後に敢えて入らん。」

燕王の**跋**は人をして牽逼せ使めて入ら令め，**什門**は**跋**を見て拜せず。**跋**は人をして其の項を按え使め，**什門**は曰く、

「**馮王**は拜して詔を受ければ，吾は自ら賓主を以て敬を致さん，何の苦しみて逼ら見る邪！」

跋は怒り，**什門**を留めて遣らず，**什門**は數々之を衆辱す。左右は之を殺さんと請い，**跋**は曰く、
「彼は各々其の主の為耳。」
乃ち**什門**を幽執（幽閉）し，之を降さんと欲し，**什門**は終に降らず。**(7-145p)**之久しく，衣冠は弊壊して略ぼ盡き，蟣虱流溢す。**跋**は之に衣冠を遣わし，**什門**は皆な受けず。
●魏主の**嗣**は博士の**王諒**を以て平南參軍と為し，平南將軍、相州刺史の**尉太真**の書を以て太尉の**裕**と相聞かせ使む。**豐真**は，**古真**之弟也。
■九月，丁巳（１日）朔，日之を食する有り。
西秦冬，十月，河南王の**熾磐**は復た秦王を稱し，百官を置く。（南涼を併せて改称）
▲燕主の**跋**は夏と連和し，夏王の**勃勃**は御史中丞の**烏洛孤**を遣わして燕に如きて盟いに蒞ましむ。
●十一月，壬午（２７日），魏主の**嗣**は使者を遣わして諸州を巡行し，守宰の資財を校閲し，家の繼（続は齋）ぐ所の者に非ざれば，悉く薄（続は簿?）して贓と為す。
西秦西秦王の**熾磐**は妃の**禿髪氏**（僖檀の娘）を立てて后と為す。
●［柔然は北魏に侵攻］十二月，丙戌（１日）朔，柔然可汗の**大檀**は魏を侵す。丙申（１１日），魏主の**嗣**は北に之を撃つ。**大檀**は走り，**奚斤**等を遣わして之を追い，大雪に遇い，士卒の凍死及び指を堕とす者は什に二三。河内人の**司馬順宰**は自ら晉王を稱し，魏人は之を討ち，克たず。
▲［馮素弗の死亡］燕の遼西公の**素弗**は卒し，燕王の**跋**は葬るに比ぶまで七たび之に臨む。（馮素弗は北燕馮跋の長弟。馮素弗墓は遼寧省北票県西官営子村に位置し、1965 年に発見・整理され、1998 年に再調査が行われた。1 号墓・2 号墓の墓葬構造・葬具・人骨・壁画・遺物(陶容器・銅容器・玉器・ガラス器・鉄工具・兵甲馬具・儀仗・車具・服章雑用・漆器など注目)）
■［司馬國璠の乱］是の歳，**司馬國璠**の兄弟は衆數百を聚めて，潜かに淮を渡り，夜廣陵城に入る。青州刺史の**檀祇**は廣陵の相を領し，**國璠**の兵は直ちに聽事に上り，**祇**は驚いて出で，將に之を禦がんとし，射傷を被り而して入り，左右に謂って曰く、
「賊は暗に乗りて入るを得，我が不備を掩わんと欲す。但だ五鼓を撃てば，彼は曉を懼れて，必ず走らん矣。」
左右は其の言の如くし，**國璠**の兵は果たして走り，追いて百餘人を殺す。
●［魏主の信任厚い博士崔浩］魏の博士の祭灑の**崔浩**は魏主の**嗣**の為に《易》及び《洪範》を講じ，**嗣**は因りて**浩**に天文、術數を問う。**浩**は占決して驗多く，是に由りて寵有り，凡そ軍國の密謀は皆な之に預かる。
夏夏王の**勃勃**は夫人の**梁氏**を立てて**王后**と為し，子の**瑰**を**太子**と為す。子の**延**を封じて陽平公と為し，**昌**を太原公と為し，**倫**を酒泉公と為し，**定**を平原公と為し，**滿**を河南公と為し，**安**を中山公と為す。

令和 2 年 8 月 10 日　　完訳開始　　11848 文字
令和 2 年 8 月 13 日　　完訳終了　　23165 文字
令和 2 年 11 月 30 日　　微修正　　23436 文字　年表・現代地名対応
令和 3 年 12 月 29 日　　書下し終了　24426 文字